



## 見学会レポート 印刷博物館 2016年11月12日

2016年の見学会は、文京区水道にある印刷博物館を訪ねました。文京区は、日本における印刷の中心地であり、現在でも多くの印刷会社、製本会社などがあります。

印刷博物館は、凸版印刷の100周年記念事業として設立されました。神田川沿いに立つトッパン小石川ビル内にあります。

「コミュニケーション・メディアとしての印刷の価値や可能性を紹介し、印刷への理解と関心を深めること」を活動の中心としています。



プロローグ展示 文字による記録の歴史

入館してすぐに出会うプロローグ展示ゾーンでは、文字による記録の歴史にさかのぼって、コミュニケーション・メディアとしての印刷を体感できます。文字による記録ができるようになると、それを保存すること、伝達することが始まります。印刷は、そのような長い歴史を持って、人類の知識・文化の発展を支えてきました。

総合展示ゾーンでは、印刷の誕生から、現代までを5つのゾーンに分けて紹介しています。グーテンベルグによる印刷が始まる前の、中国や日本での印刷物から、水と空気以外印刷できないものはないとまで言われるようになった現代の最先端の印刷までが紹介されています。

また、印刷の体験コーナーも充実しており、今では目にするの少なくなった鉛活字を使った活版印刷の体験コーナーをはじめ、様々な印刷に関する体験ができます。私たちが訪ねたときは、カラー活版印刷の体験コーナーを行っていました。

また、印刷の体験コーナーも充実しており、今では目にするの少なくなった鉛活字を使った活版印刷の体験コーナーをはじめ、様々な印刷に関する体験ができます。私たちが訪ねたときは、カラー活版印刷の体験コーナーを行っていました。

左 活版印刷体験コーナーで、カレンダーを印刷しました。右 オフセット印刷の展示

## 企画展 武士と印刷

しかし、これほど多様な印刷の世界は、常設の展示だけではとても紹介できるものではありません。印刷博物館では、印刷の世界の奥深さ、広がりを知ってもらうための様々な企画展を開催しています。

私たちが訪れたときに開催していたのが「武士と印刷」展でした。

武士といえば、戦い、合戦のイメージがありますが、同時に、権力者であり、官僚であり、行政官であり、と様々な側面を持っています。「武士と印刷」第1部で江戸時代に人気のあった歌川国芳の武者絵約150点が展示されています。江戸時代には、浮世絵をはじめとする版画が庶民に親しまれていましたが、源平の合戦から、戦国時代までの武士の物語もまたよく知られていたようです。私たちの武士のイメージは、どうやら武者絵あたりにルーツがあるようです。

一方、武士はまた、当時の知識階級でもあり、戦国時代から江戸時代にかけて、武将、将軍、大名たちは、多くの印刷物を作らせました。その展示が第2部です。

こちらには驚かされました。実に多様な書物が作られていました。しかもその多くが、美しく丁寧につくられています。江戸時代の印刷は、現在とは違って1頁をそのまま板に彫る版画と同じ方式が多かったのですが、実は活字を組み合わせる活版印刷と同じ方式の印刷方法も行われていました。徳川家康が作らせた『貞観政要』という書物は、木活字を使っています。さらに家康は、銅活字を使った書籍も作っており、その活字も展示されていました。



木活字による印刷物

## 現代日本のパッケージ 2016

コミュニケーション・メディアとしての印刷ということになると、どうしても書籍・雑誌が中心となりますが、身近な印刷物として忘れてはならないのが、包装、パッケージです。現在では、こちらの方が、市場としては大きく、「水と空気以外は印刷できないものはない」という印刷技術の進歩を実感できる場所です。



印刷博物館のP&Pギャラリーでは、日本で開催されている大規模なパッケージコンクールの受賞作を紹介する「現代日本のパッケージ2016」が開催されていました。第55回ジャパンパッケージコンペティション（一般社団法人日本印刷産業連合会主催）の受賞作品が展示されていました。

印刷されるものも、紙だけでなく、プラスチックなど様々ですし、パッケージのデザインも実に多様です。しかも、機能の充実のために、様々な目に見えない工夫がなされています。印刷の広がりや改めで実感できる数々のパッケージが展示されていました。

(八代 啓一)

印刷博物館 [詳しくはこちら](#)

〒112-8531 東京都文京区水道1丁目3番3号 トッパン小石川ビル  
TEL 03-5840-2300 (代)